

この週末はカジュアルクルーズ

気軽に愉しむ 大人の船旅



ゆつくり流れる時間の
有効活用

海の青が藍色に変わっていく。そこへ夕陽が茜色に染める。大阪・南港を出港した「さんふらわあ さつま」は、関西国際空港を横目に見ながら友ヶ島沖へ差し掛かった。甲板には多くの乗船客が出て、その美しさに見入っている。船旅の不思議なところは、甲板上に数人いようと、その風景を独占したかのように思えること。波の静けさと黄昏どきの美しさが風景の中の孤独を演出してくれている。

鹿児島へ旅立とうと計画したのは、数日前のことだ。仕事に二区切りをつけて船で行くことにした。九州へのルートは、飛行機もあれば、新幹線もある。車で走ったければ、高速道路をひた走る手もあるわけだ。それでも船旅を選んだのは、時の流れをゆつくりと進めたかったのと、仕事で疲れた身体を休めたかったからである。人生のうちで、お金と暇があれば、豪華クルーズで海外に行ってみたい。そんなことを常々考えておきながら、まだまだ働き盛りの我が身は、その域まで達していない。かといって最近流行りの豪華列車の旅は荷が重い。かなりの出費が強いられるからだ。そんな時に飛び込んできたのが「カジュアルクルーズ」なるフレーズであった。それ

を実践している「フェリーさんふらわあ」は、時代にマッチした船旅を薦めている。かつてフェリーは、車を運ぶ手段として主に用いられ、広間で雑魚寝の印象が強かった。ところが今は、個室を取って快適な旅を楽しむ、そんなニーズが高まっていると聞く。それなら私も九州へのルートは、カジュアルクルーズをと考えたとしておかしくはない。

株式会社フェリーさんふらわあ旅客営業部営業企画室の仲村啓人さんの話では、最初に埋まるのがファーストシングルで、気兼ねすることなしに二人旅を楽しむと、二人用の個室から売れていくそう。一人でもツインの部屋を押さえない向きは、ホテルと同じ。最上のデラックスとまではいなくても、デラックスBを取ってゆったりと使う人が多いという。かくいう私もそのうちの一人。ファーストシングルが取れなかったのでデラックスBをシングル利用することにした。

たまたま夕食で隣りに座った濱田一也さんは、親子5人で車にて乗船。出身地・長島町へ里帰りのルートを海上に取った。「4歳、2歳、0歳と子供が小さいのでゆっくりできるフェリーがベスト。3年半ぶりの里帰りですが、孫を見せてあげるのが楽しみです。」と話している。濱田さんは夜勤明けの疲れた身体で旅に出た。「フェリーな